平成 30 年度エネルギー環境教育授業実践
「非連続型テキストに着目したクリティカル・リーディングの指導」

津市立豊里中学校
第１学年国語科　大村　政茂

１　実践の目的

PISA2000 で出題された「チャド湖に関する問題」に、「図 1 のグラフは何年から始まっていますか」というものがあった。

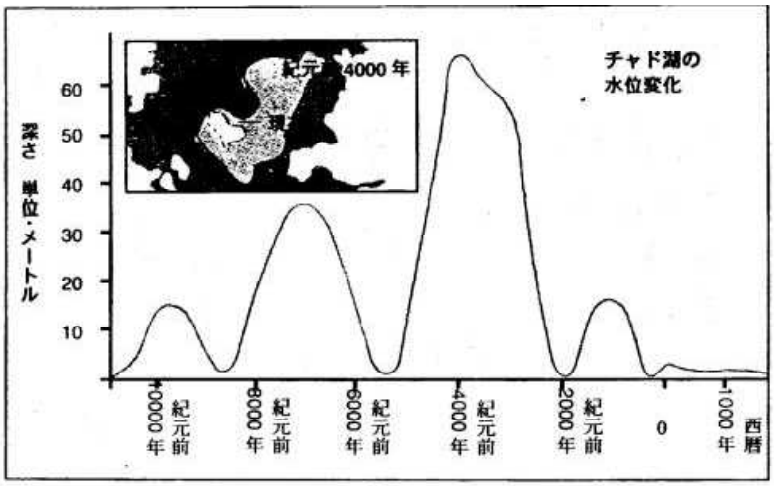


図 1

見ての通り、答えは「紀元前 11000 年」なのだが、実際の正答率は 52.2 %、無解答率は 7.2 %であった。ただグラフの起点となる年を読み取るだけなのだが、これが意外とできていないことがわかる。

また、平成 27 年度に実施された国立情報学研究所のリーディングスキルテスト予備調査においても、図と文章を対応させて読み取る基本的なスキルに弱さがあるという指摘がされている。

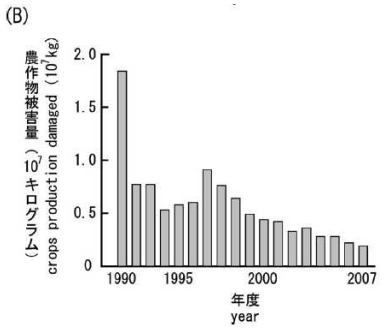
また、今日ではエネルギー、化学物質、環境問題等において、様々なデータが根拠として使用され、その数を上回る主張がなされる。今後、資料を読み取り、考察したり、他者の考察の妥当性を検討したりする力は重要になっていくものであると考える。

そして、教材文中に「鳥類が環境変化の指標となることが指摘されている。もしスズメが本当に減少しているのであれば、それは我々にとって身近な環境、特に都市環境が変化していることの指標になり得るかもしれない」とあるように、身近な環境の変化に気づき、そこから大きな環境の変化に関心を持つことができる力の育成につながる契機としたい。

２　教材について

教材名「スズメは本当に減っているか」．新しい国語 1．三上修．東京書籍

本教材は三上修による「日本におけるスズメの個体数減少の実態」という論文が元になっている。それを筆者本人が教科書用にリライトしたものである。教科書掲載にあたり、論文にあった図（図３（B）、図４）の２つがスポイルされている。どうしてスポイルされたのか、何を論証するための図であったのかを検討することで、「解釈」「熟考・評価」の力をつけるのに適している教材だと考える。



（図３（B））

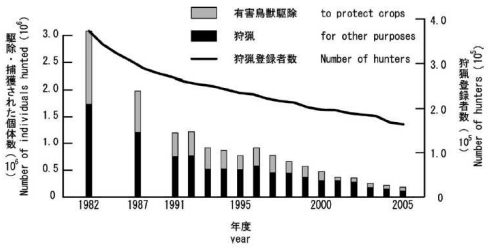


図 4．日本における有害鳥獣駆除および狩猟により捕獲されたスズメ個体数の年変動および狩猟登録者数の推移．駆除・捕獲された個体数のうち 2000 年度までのデータには，「スズメ類」という括りで，スズメ以外の種も含まれている．環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室（オンライン）より作成．

（図４）

４．授業の実際

単元名「図表と文章の論理を検討する」

(1)　目的

・図表を読み取ることができる力を育成する。
・図表から推論する力を育成する。
・主張と根拠と理由付けの内容やつながりの妥当性を検討できる力を育成する。

第１時　範読・グループでの音読練習。
第２時　論理を捉える①。
第３時　論理を捉える②
第４時　資料の妥当性を検討する。
第５時　論文ではあったが、教科書ではスポイルされた資料の必要性を検討する。

グループやクラス全体での対話を多く用いるようにし、「図４はあった方がよいか」について検討させた。以下に、生徒の意見をまとめたものを記す。

> 想定される読み手である中学校一年生に対しての配慮と考えられる。
> 図４があることで、文章が複雑になったり、図が多すぎてかえって混乱したりすることが考えられる。ただし、事例が増えたほうが説得力は増すので、その点ではあったほうがよいとも考えられる。

すると、生徒からこの学習から「教科書の図１は数字ばかりでわかりにくい。この図１をなくして図４を入れる方がわかりやすい」という意見が出てきた。そこで、この意見について検討させたところ、本文に「図１のように折れ線グラフで表してみると、その傾向がよりはっきりします」「仮に、この調査記録から、どこか数年分を抜き出してみたらどうなるでしょうか。減っているとも、増えているとも、あまり変わっていないとも、どのようにもいえてしまいます」という記述から、中学生が説明文を勉強するにあたり、グラフの効果をわかってもらうために、わざと残したのではないかということを捉えることが出来た。これは、書き手の読み手に対する意識にまで考えが及んでおり、図４の検討から思わぬところまで生徒が考えを深められたことは思わぬ成果であった。最後に、次のように学びをメタに捉えるためのまとめを行い、授業を終えた。

> 【まとめ】
> ①　文章には想定される読み手がいて、それに合わせて書かれている。
> ②　根拠となる事例は多い方が説得力は増す。ただし、読み手に応じて必要な事例の数は変わることがある。
> ③　物事は多角的、多面的に捉えるようにしないと、勝手な決めつけになるため、説得力が薄れる。

入学してから今まで、クリティカル・リーディングに取り組んできたことの、一定の成果が現れたと考えている。

第１学年ということもあり、読解力に限界があるので、学年が上がるに応じて新聞記事や一般の書籍を使用してエネルギー・環境についての文章を解釈、評価する取組へと進めていきたいと考えている。

今後も生徒に育みたい資質・能力を明確にし、対話的に問題解決をする授業について研究を進めていきたい。

４．引用文献

三上修（2008）『日本におけるスズメの個体数減少の実際』日本鳥学会誌